



エコアクションニュース

発行：エコアクション事務局
〒662-0832 西宮市甲風園1丁目8-1
西宮市環境学習サポートセンター内
TEL 0798-67-4520
FAX 0798-67-4523
企画：NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF)

NISHINOMIYA 2016 VOL.19 2016.3

平成27年度 環境まちづくりフォーラム 食・農・環境の「つながり」について考える

2月13日、西宮市役所東館大ホールにおいて環境まちづくりフォーラムが開かれました。参加者 108 名。環境省から中尾文子室長（自然環境局 自然環境計画課 生物多様性 地球戦略企画室）を迎えた基調講演では、生物多様性が損なわれている現状や平成26年12月に立ち上がった「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトについて話されました。

かつては、豊かな日本の自然「森里川海」から多くの恵みを受けていました。現在、人の暮らしの変化、開発や人口減少、自然災害などにより自然と人のつながりが薄れてきており、「虫を捕まえたことが無い」、「太陽が沈むところを見たことが無い」子供が増えているなど、特に森里川海で遊ぶ子供が絶滅危惧状態となってきています。このプロジェクトでは国民一人一人が森里川海の恵みを支える社会のしくみづくりが提案されています。



←中尾氏
フォーラム会場

「食・農・環境」の取り組み
紹介パネル展示↓



第2部のパネルディスカッションは、「食と農と環境のつながりを大切にするライフスタイルを求めて」というテーマで、企業、行政、教育委員会、大学生により市内甲山エリアや塩瀬地域で実施されている「農」「自然」体験事業の紹介があり、中尾氏から、西宮では甲山などの「都市に近い」という事を最大限に活かし、森里川海がつながる取り組みとして全国モデルとなってほしいとのメッセージをいただきました。

EWC環境パネル展 出展作品から見る

子供達と地域

西宮市の環境学習事業「2021年・地球ウォッチングクラブ・にしのみや」(EWC) 事業では毎年一年間の活動を発表する「環境パネル展」を開催しています。今年度も2月24日～28日まで西宮市民ギャラリーにおいて、小学校をはじめ一般市民合わせて約350点の作品が展示されました。(さらに海外からの絵画作品等約900点も展示)

地域とのつながりを持つために3～4年生を対象に設定しているエコメッセンジャー活動の作品も展示されました。地域を調べた活動や大人からもらったエコメッセージをまとめたものなど、子供達の学びから伝えられることがたくさんありそうです。一部ご紹介します。



エコメッセンジャー活動参加クラスの作品は <http://ewc.leaf.or.jp> 「3・4年生エコ・メッセンジャー」からご覧いただけます。

↑ 夙川小学校4年3組作品

↑ 春風小学校3年4組作品

市民活動カード

エコアクション事務局まで
お送りください。
公民館窓口から送ることもできます！

15活動で
「エコペン」
プレゼント！

活動終了は 3月31日。
4月8日(必着)までに
事務局にお送りください。

地域での社会活動、環境・福祉・人権・平和・国際などを考える活動をした時に「エコスタンプ」を押印してもらうカードです。一人一人の活動がカードを通して、地域のつながりを生み、持続可能な地域づくりに役立つことを願っています。

エコスタンプ、市民活動カードについて
お問い合わせはエコアクション事務局(0798-67-4520)まで

エココミュニティ会議

エココミュニティ会議は、環境学習都市宣言の理念を実現するために策定された「新環境計画」のなかで、地域住民が自主的に地域の課題を見つけ、その課題の解決に向け検討を重ね活動を行う、地域に根ざした場として位置づけられました。平成 17(2005)年度には、学文地区で初めて発足し、平成 27(2015)年度では 21 地区で活動が進められています。

甲東エココミュニティ会議

甲東環境活動作品展

11月6日～8日、「次世代を育む環境の輪を広げよう！」をテーマに甲東環境活動作品展を開催しました。

アプリ甲東の展示室には、園児から高校生までの「ごみ」から生まれたエコ作品や環境への取り組み、ポスターなど 150 点もの力作が展示されました。

今回の来場者は 517 名。そのうち 126 名が子供達。4 つの校区の小学生達は、ほぼ全員がエコカードを持参してくれました。「エコ活動にはエコカード」が子供達に定着していることを実感しました。

6 年目となった作品展も学校や先生方、地域の皆さんの理解と協力を得て開くことができました。こうした温かいつながりの中で、子供達の活躍の場が学校から地域へと広がっています。



↑ 手作りコーナー
「わらじ作りと紙皿まわし」
子供達に作り方を説明しました。

社会的な活動として地域にその成果が還元されるしくみ
「持続可能な地域づくり・サポート基金・にしのみや」
〈大人と中学生の市民活動カードの活動数〉、〈地域の小学生のエコカードに集まったエコスタンプ数〉を合わせた数 × 10 円の金額が地域のエココミュニティ会議の活動資金に提供されます。

* 活動支援金提供には 10 名以上の中学生の参加が必要等諸条件があります。詳細は「持続可能な地域づくりサポート基金・にしのみや管理運営委員会事務局」まで

NPO 法人こども環境活動支援協会 (LEAF)
TEL: 0798-69-1185 FAX: 0798-69-1186

学文エココミュニティ会議



マイバッグ持参運動促進のため、「手づくりマイバッグ」を学文中学校の生徒たちに作っていただきコープ西宮東店に設置しています。

学文エココミュニティ会議の 10 年を振り返り

平成 18 年(2006 年)3 月に発足した「学文エココミュニティ会議」は、この 3 月で、活動開始から 10 年を迎えることとなります。

振り返ると、この 10 年の間、環境をテーマにさまざまな取り組みを行ってきましたが、活動区域が広いことから、当初、取り組み内容を決めるのに時間を要したことを思い出します。特に当会議の根幹を成す取り組みである「マイバッグ持参運動」については、話し合いの中で出た一つのキーワードがその始めるきっかけとなりました。それは、「何をするか」ではなく「何が必要か」ということで、地域の中で不足している要素を抽出し、世代、業種に関係なく全体で取り組めるテーマを絞り込み、決定したことにより、今では、「マイバッグ持参運動」は、住民、事業者、行政機関はもちろんのこと、多世代に受け入れられて広く地域に浸透しています。

そのような現状ですが、4 月からは次の 10 年が始まります。これからもエココミュニティ会議を通じ、息の長いスパンで持続性のある地域活動を考え、次世代を担う子供達にも是非継承できればと考えています。

「町名の話」が閲覧できます!

人・まち・エコ
つなげてマップ にしのみや

<http://map.leaf.or.jp>



「人・まち・エコ つなげてマップ にしのみや」は、小学校区ごとに、歴史、文化、自然、生活、防災、環境活動支援施設・事業所などの情報を年代別に整理し、地図からも検索できるようになっています。

また、山下忠男氏のご協力により「町名の話」を掲載しており、町名から地域の文化、歴史、地理的面等も知ることができます。持続可能なまちづくりに向けて地域理解を深め、学習活動に役立てませんか?